横浜市立今井小学校
令和５年４月２８日
学校だより　５月号

今井小だより

学校教育目標　：　か　が　や　い　て　い　る　子　　「自分大好き！今井大好き！」

１年生と６年生

学校長　松永　史郎

　爽やかな風と若葉の緑が心地よく感じられる季節になってまいりました。学校には、子どもたちの元気な声が響きわたっています。

　朝、児童支援専任の渡邉教諭といっしょに校門に立って、登校してくる子どもたちを迎えています。毎日同じことの繰り返しのようでいて実はそうではなく、日々の変化や子どもたちの成長を実感できる貴重な時間だなと感じています。
　そんな中で、この４月に特に心に残っているのが、１年生に優しい声かけをしながらお世話をする６年生の姿です。両手を１年生とつなぎながら、ちょっぴり照れくさそうに、でもうれしそうに登校してくる姿や、登校途中に鼻血を出してしまった１年生を、班のみんなより遅れて寄り添って学校まで連れてきてくれた姿など、とてもすてきだなと思う場面がたくさん見られました。
　登校だけではなく、給食など学校生活の補助で６年生が１年生のお世話をする場面は、たくさんあります。１年間を通して行われる「たてわり活動」の中でも１年生と６年生のペアの活動はとても大切で、昨年度も最初は世話をされるばかりだった１年生が、１年間交流を続けて、卒業を間近にした６年生に心から感謝の気持ちを表すところまで成長する様子を見て、教職員全体で学校として大切にしていかなければならない活動の一つだと確認しています。

　以前読んだ本の中に、子どもたちが互いを思いやる気持ちを育てていくために、１年生と６年生の５歳差という関係はちょうど良い年齢差ということが書かれていました。確かに学校では毎年１年生と６年生の交流が計画されていて、形だけではなく互いに顔と名前以上にさらに知り合えるように工夫した活動を意図的に計画・実践することで、全校の子どもたちに良い波及効果をもたらすことが経験的にわかっています。１年生のときに親身にお世話してもらった経験や記憶は、子どもたちの心にしっかりと残っていて、２年生になって自分が一つ上級生になったとき、あるいはその後も異学年との交流の計画をするときなどに、自然と生かされていくものなのでしょう。

　学校では、今後も子どもたちの日常の学校生活の中で、あるいは学校行事の中でも、このような異学年との交流を大切にした取組を意図的に取り入れてまいります。子どもたち同士が一人ひとりの顔がわかる温かい関係をつくれるのは、小規模の今井小学校ならではのメリットとも言えるでしょう。

　子どもたちは、元気いっぱいの様子が見られる一方で、新学年での生活に少し疲れも見せ始める時期を迎えています。ゴールデンウィークの休日に英気を養い、また５月からの学校生活を楽しんでほしいと願っています。引き続き本校の教育活動へのご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。